

産業クラスター

青梅沿線で始動

8市町など参加 販促・人材育成で連携

東京都青梅市など東京・西多摩地区の五市三町と七商工団体、社団法人首都圏産業活性化協会(TAMA協)が「青梅沿線地域産業クラスター協議会」(会長、清水保男青梅商工会議所会頭)を結成した。四日に羽村市内で設立シンポジウムを開き、本格的に活動を始めた。写真。

協議会は青梅、昭島、福生、羽村、あきる野市、瑞穂、日の出、奥多摩町の八市町と青梅商工会議



所、昭島など六市町の商工会、TAMA協で構成。地域内の企業、事業所をクラスター(ぶどうの房)として有機的なネットワークで結びつけ、企業間

の取引、連携、協業を活発にして地域を活性化する狙い。

主な事業として①営業や販促促進に関するセミナー開催、コーディネート活用など販路開拓支援②経営計画策定や技術課題解決の人材派遣など経営課題解決支援③後継者などの人材育成支援④地域内企業のデータベース作成、産学連携・技術移転支援機関との連携など情報収集力強化一を実施する。

協議会によるとJR青梅、五日市、八高線沿線地域では約三千の製造業者があり年間出荷額は約二兆円。連携と競争を通じて新たな産業集積エリアの形成をめざす。